

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

誠之館の品格は教職員から

- 1 私たちは、子どもたちを守り、育てます。
- 2 私たちは、法令を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を許しません。
- 4 私たちは、地域に開かれた学校にします。

平成30年度不祥事根絶のための行動計画

広島県立福山誠之館高等学校

作成責任者 校長 古前 勝教

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立、当事者意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○過去に成績や出欠に係る修正が複数回発生した。 ○ヒヤリハットがなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事はどこでも、だれにでも起こりうるものであると認識し、自分のこととしてとらえる。 ○教職員一人一人が、決して不祥事を起こさない。決して不祥事を許さない態度を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数人、複数回のチェックを徹底する。 ○大切な個人情報扱っているという意識を高め、身の回りの整理整頓を徹底する。 ○組織の中心的価値である「誠之館教職員の3つの視点」を週始めに唱和し、教職員の意識を高める。 ○記者発表資料や新聞報道等を即時研修資料とし、研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会、教科会等で主任が状況を確認、報告する。 ○管理職がチェックリストを活用し、常に教職員の状況を把握する。 ○本人のみならず他の教員の情報についても細やかに収集する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットについて、主任・管理職への報告が遅れることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の可能性を最大限に伸ばし、成長に喜びを見出し、組織的に業務を進めて不祥事を許さない風土を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に高い志を持たせ、自主的に学習する学校づくりを進める。 ○具体的場面での効果的な注意喚起や、ヒヤリハットの段階で気づき、対応するための研修を充実させる。 ○情報共有を確実にを行い、教職員同士のコミュニケーションを促進し、報告・連絡・相談を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務運営会議、不祥事防止委員会、学年会等で随時情報交換を行い、状況を把握する。 ○担任会・学年会・分掌部会で重要事項の周知、確認を行う。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント、いじめ相談窓口」の活用や生徒に関する情報共有が十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント、いじめ相談窓口」の周知を担当中心に全教職員が繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。 ○年度途中で、再度窓口の周知を行い、掲示が確実に行われているか再点検する。 ○「パワハラ」について研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりで保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 ○学期末懇談会において、相談窓口の案内プリントを配付するとともに、保護者から体罰、セクハラ等について聴取する。 ○アンケートによるだけでなく生徒の日常の様子に敏感になり変化に気づくための研修を充実させる。 ○校務運営会議において、(定期的に)生徒の状況を報告し、把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期末に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。 ○学期末懇談会における保護者からの聴取記録を作成する。 ○学期末に集めた情報を、相談窓口の教職員で集まり共有する。 ○管理職による教員面談を充実させる。